



みなみっ子

学校教育目標

自立

協働

創造

67号

令和8年9月24日(木)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

算数は楽しいモノ!!

算数は本来、「パズルを解くような探究の楽しさ」や「世界を見る視点が広がる驚き」に満ちた教科です。しかし実態としては、学年が進むにつれて「つまらない」「苦手」と感じる子どもが増える傾向にあります。子どもたちが楽しさを失ってしまう背景には明確な構造的要因があり、それを解消するためのアプローチが存在します。

1 子どもたちの現状(実態)

文部科学省の「全国学力・学習状況調査」などのデータでも、低学年では「算数が好き・楽しい」と答える児童が8割近くいるのに対し、高学年(特に小4～小5の壁)になるとその割合は大きく低下します。**低学年:**数のカウントや工作に近い感覚で、直感的に楽しさを感じやすい。**高学年:**「分数・小数」「割合」「速さ」など抽象度の高い概念が増え、作業としての計算量が増えるため、嫌悪感を抱きやすくなる。

2 楽しさを奪う4つの主な原因

- ①解法の「作業化(暗記)」:「このパターンの問題はこの手順で計算する」というアルゴリズムの暗記作業になり、「なぜそうなるのか?」という本来の探究プロセスが抜け落ちてしまう点です。
- ②正解・不正解への過度なプレッシャー:算数は答えが明確にひとつに出ることが多い反面、計算ミスや思考のズレがダイレクトに「×」となります。テストの点数評価にさらされることで、「間違えるのが怖い教科」になってしまいます。
- ③抽象化のステップでのつまづき:「おはじき3個」という具体的な物から、「3」という数字、さらに「割合(30%)」という抽象的概念へ移行する際、視覚的・体感的なアプローチが不足すると一気に理解が追いつかなくなります。
- ④生活や実生活との切り離し:教科書の中の「A君とB君が池の周りを走る」「水槽に水を注ぐ」といった非現実的な設定の計算ばかりさせられ、自分の生活にどう役立つのかを実感しにくい環境があります。

3 「わくわく」を取り戻すための解消法

算数の楽しさを取り戻す鍵は、「手と頭を動かす体験」と「解き方のプロセス自体を楽しむ評価の転換」にあります。

解消法1:具体物を使った「体感」から始める。公式を教える前に、紙を折る、立体を作る、実際に長さを測るといった体験を挟みます。例: 分数の足し算($\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$)を計算式だけで教えず、折り紙を半分の半分に折って「重なる部分」を目で見て体感させる。

解消法2:解き方の「多様性(別解)」を認める。正解が「13」だとしても、そこにたどり着くアプローチは1つではありません。「他の解き方はないかな?」「A君とB君の解き方はどこが違う?」と、プロセスそのものをパズルとして面白がる空気を作ります。

解消法3:失敗(間違い)を「発見」として歓迎する。「なんで間違えたんだろう?」を考えるこそが思考力を伸ばす最大のチャンスです。間違えた答えに対して「お、面白い間違い方!ここをこう変えたら正解になりそうだね」と受け止めることで、失敗への恐怖を取り除きます。

解消法4:日常の中に算数を組み込む算数が単なる「テストの教科」ではなく、「現実世界を解き明かす便利な道具」であることを実感させます。買い物で「10%引き」と「100円引き」のどちらが得か考える。お菓子を均等に分ける方法(割り算・分数)を身近な場面で試す。

期待される学びの変化

従来の学び(苦痛になりがち) → 本来のワクワクする学びへ 正解を出すことが目的 → 考え方を見つけることが目的へ
公式を覚えて当てはめる → なぜそうなるのか発見する学びへ 間違い=評価が下がる失敗 → 間違い=思考を深めるヒントへ
算数を「解かされるもの」から「世界を理解するためのツール(遊具)」へと捉え直す工夫が、家庭や学校の双方で求められています。

算数をもっと楽しく!わくわくを取り戻す魔法のヒント

なぜ「算数ぎらい」になっちゃうの?(4つの原因)



「小4・小5の壁」で楽しさが低下
高学年で抽象的な概念(分数・速さ等)が増え、低学年時の「直感的な楽しさ」が失われやすくなります。



単なる「暗記作業」と「バツ」への恐怖
解き方の手順を暗記するだけになり、計算ミスによる「不正解」へのプレッシャーが探究心を奪います。



生活との切り離し
「水槽に水を注ぐ」といった非現実的な設定ばかりで、自分の生活にどう役立つか実感を持っていない環境があります。



結果、算数に苦手意識を持つ
子が増えてしまいます。

「わくわく」を取り戻す4つのアクション



具体物を使って「体感」から始める
公式の割に、折り紙や立体作りなどを通して「目で見て触れる」ステップを挟み、理解を助けます。



「間違い」を大発見として歓迎する
失敗を評価を下げるものではなく、思考を深めるヒントとして捉え、プロセスそのものを楽しみます。



日常の中に算数を組み込む
買い物での割り計算や、お菓子の分配など、生活の中の「便利な道具」として算数を使ってみます。



従来の学び(苦痛)
目的: 正解を出すこと
公式: 覚えて当てはめる
間違い: 評価が下がる失敗



本来の学び(ワクワク)
目的: 考え方を見つけること
公式: なぜ?を発見する
間違い: 思考を深めるヒント